女猴教訓

賢女心得鑑

三

660
3

賢女孔化粧

三之巻

目録

明治三六年九月十一日購求

遠へ13
門
號 660
巻 3

第一

こゝろ
ゆゑいれを刷猫掻撫して繼母乳貰
ちゝのといいてゝいそれ兄弟の中
欲く惡こい目小こてゝ主のこゝろ閑に
只村宝に掛る十六枝う不意

第二　腹切りい嵯峨の花壇立て又才ろひ
　　乱いしすぶれ髪つ手いてし侍者乃家お
　　用てふこ乃ける姫汲女いげんざいの姉
　　妹のとぐを身にうづる猫乃りん

第三　姿より心の底を慶乃さ姫の行法
　　おんどりにてるれてかんれやすめ鳥
　　那波深結きおあ〜ふい侍者ぐ〜ろ底の閑花
　　侍いかるれ枠のひぐさとゆて公い洪石乃貞女

なよい爪を刷猫姫女の絶無乳賀
夫継母の二字い侍母て侍て婚の母哉いるーズい離別て孤
とかるべきと。おの母ま お続てけぐくひんぐ。ぴいぐ。おの母ま母ぐ
ん。侍る男ろ。ぐ。他人ま人ろも。我ま乃ゐつまき方人い侍ま
ゐ仁ぐ。ま身おてもよれかぐ。ぴ。女ま乃ゐ。ぐ侍の中に親ま
ちぐぐ人ぐ。ぐ。我ま侍ま。我身ま仁おてぐ。ぐ。ぐ侍ぐ
ゐゐ仁ぐ。必我ま侍ま。て。侍ゐんゐ猫のゐ。とまゐ。ゐ
ぐ。ぐ。たひ侍母ゐを。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。侍ま
の方ゐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。侍母の心ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。侍
ま侍母ま仁ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

ある若狭守の家に、強盗の義気上様家敷の内へ。お引廻沢
の代表として、家内ゆうふうして、婦と二人わかい十六歳、妹い名月そこ二
人里のかまで、美人のよしみて、家内へ斜うに、婦十二歳いと左強盗の
そこ。脇指抜のけいせいふく別てうけ。こ何い女妻にるなきゆく。
関家はゆこ、ゆえ、まよ、彼して、婦よ、言ひ、ときちて、係の話とつぶ、ほ
ふ。九学の中、撫湖の陸と、絵を、して、そぐ、ら、れ、よ、二、年、ろ、そ、妹の名月お
はきちけ、きば、母、ろ、婦と、続、み、く、流、る、知、る、家、只、ゆ、て、我、身、し、妹、と、の、こ、ろ、く
乾せ、ば、婦、い、せ、る、こ、し、て、無、な、立、て、強、盗、の、徒、士、の、中、に、て、婦、ば、こ、人、の
次男と言ふ、て、妻合、若狭の、知、と、お、話、せ、ん、と、ゆ、く、妻、宅、こ、も、関、係、を
く、ら。婦、い、すぐ、に、十、ま、ま、ら、ば、ら、一、本、耳、の、中、に、い、寄、宅、て、ば、表、達、の、和、よ
逸、ぎ、こ、る、と、言、て、こ、ゆ、ど、で、逃、失、ひ、妹、よ、言、ま、寄、と、ら、れ、て、あ、と、に、げ、ぜ、ん、と。
邪、欲、ま、ま、ら、ば、き、ば、て、婦、十、六、歳、と、面、形、よ、あ、れ、巧、と、立、ま、し、猫、の、面、と

ひ、そ、ら、て、の、ま、ま、ら、ば、母、は、面、を、ま、ま、で、ば、ば、い、ま、ま、ま、毛、の、陰、と、ぐ、ら、流、れ、て、ま、ん、で
婦の、寝、床、に、行、ば、ま、ま、ば、げ、る、ま、ま、と、あ、り、ば、我、い、を、き、ば、を、ば、ま、の、中、流、れ、の、か
こ、ま、ば、ば、ば

和藏の大中方のもしいて胴乳の皐行をもてうくいさん。絶へすることを恥で
ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻眼つゝゑ〻ゑ〻ゑ〻

の方さが山なりにあるとおもてうづき。下ざかりの家へ行かれて。裏門よりいづちたち出るかの。猫の名月姫いかに。初なる。○べいつも起らるとそ侍ぶ。人の
部屋へ一番のりとなるべし。机の上にあるうぶん。ぶつ。ひき
ちひ肝とつぶて。おれとうんせ。ぶつ。ぶつ。ちろ。ぶつ。ちろ。ぶつ。ちろ

姦淫をせんとする丈達の悪心ハ仏始といふいねで拘くみつきの始ハ
と。そのあひ三後みて。そしらう紀来をうるとも。ちてうなどでもいて。
けがいて始といの者ハ仏ハ。そうそうそうそうして。世のやれ男。妻にわるていづしハ月の
足ゆるものひとりも臣。商士の者南いがつしなき婦人の名をなどうもし人
ろ。仏ハ法の毒ハ三業とまろうて。ぱりも者紀ふうき仏来といふ先服のうと
報さ仏ふる。婦人とも女房にわつて。い月が臣。始てや長ふる人い妻女のよとか
祝のうとよいとのこうふて。世界を打ふうとけが。我こそ始妻とすうこいふ
報ふて。こ妻のお供ふでい。商ふうの妻ふ商人仏ふ中いつうものなうふ。
毛三四月の仕ふをもはだ人ハ仏ハ四月始「反報合せハ。風信もふうきに対て
仏のの供ふもてざり。切を打ふ。ふう神経ドでふ臣きにいまがつうど。
こうの女房ハいが始妻と性ひて。姦とるがれ。そうふ者法上移者合仏ふ人
仏ふ仏。法ハ仏ハ三勇みて。法ふうの中ふ三に男と打て。商が者に食妻と

始仏して仏ハ後ふ。と来ふ。者法とふて始仏の紀者ハ。ふ越妹姫ふ婿とふ
家婦お続せんと。算とハ三ふうふ仏ふ。ふうふ仏ふ。ふて年月をふうふれ。
今年月月始も。妻法ふ。ふ紀の月と法ふふうふ。始ふこの中ふうのふ
ひとれふ中せふうどハうどう。第ハふふれふうふ仏の中ふ。始縁なふ

腹形ふハハ仏ふの紀者ふて。ふ牙ふひ

苦ふふ牙ハ仏人の始ふとふて。世法ふうふ。そふ始ふ妻ふて。ふ長ふ法ふ
ハ。ふふて人ハふふふふど。商ふ紀ふ黒ふ月ハふふふふ。始ふ
始ふふ始ふ仏者の名ふふう。ふふれふふふ始ふ。ふ中ハふふふふふ
ものハ仏。ふふふハハふふ。ふ仏ハ牙ハ。ふふ中ハふふふふふ
大不者ふふふふ。法ふ君ふの書ふハ。ふ牙ハたふの。ふ始ふふふふて法ふふふ。
ふふハ妹ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ちゝをしぼりて、必養育せんと、はぐくみ給へども、乳房なきゆへ、
乳を飲ずして、ほうこうの者にあたへ、毎日養育せしが、
今日は二歳の涙の雨、乳母の手にかゝりて出家する。
の金次、又二歳の涙の雨、乳母の手にかゝりて出家する。
いつまでも、なんせんせしが、思ふ天の恵、松そと
天の恵のうつくしきを、孫にまさりて、思ひ給へども、
孫にまさりて、老もあり、年よりとなりぬれば、
七八年、なれ、いつくしみ、孫にまさりて、
うしなひ、なげき、ひとり、ぬけ、
の上にあらず、せられ、塩焼、
つき、清の女、塩汲、桶と、
もきよらに、紅葉、

なごりをしいおもざるやとは、
汲のゆへ、
てさて、
づきあいて、
いそぎ、
はなし、
うつ、
出家、
松、
かきり、
くけ、

乳母の、ちゝを、
海、女、
乳房、
大きゝ、肝、
妹、
ちゝ、
乳房、
大、
毎、
出、
ひ、
ば、
ば、
ば

[illegible]ぶつまでもさてくらてさかぐし法のべおの者も法よりもびきひたん
かしてつくとさてこひ[illegible]なかっぷ。ぶどこそうれくれみぐ[illegible]
ぶひようあ猫の[illegible]ぶてぶれひめぐてぶそうれいつ法でびんやず出て。
はいづくとしてれぐさ[illegible]ちもうくぶ[illegible]
てくぐきわぐらぶまるこのちいさの猫。[illegible]といふ[illegible]の[illegible]
法師と家[illegible]ぶるは[illegible]めと無れぶ[illegible]ぶの[illegible]
るこ在のぶとそれいろつ[illegible]猫[illegible]押[illegible]きびく[illegible]
ひすると行れて[illegible]とあ[illegible]ぶるとぶ[illegible]ひつ[illegible]
を猫[illegible]の[illegible]家[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ちてぶ[illegible]法[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ法[illegible]と[illegible]法[illegible]
合[illegible]のとを法[illegible]れぶ[illegible]

[illegible]ぶがぶしてあれぐてぶふぐびてるこ[illegible]
せるこはぶを[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
かさてみてあぐきぐと法るぐ[illegible]ぶとつてこ法[illegible]
ぐぶかくお[illegible]ぶ[illegible]ゆんとぶ[illegible]
我とてもおつてぶとなつぶとこひまんぐ[illegible]ぶ。
らぐ今ぶれぐと。猫のいの一ぶ今ぶて[illegible]ぐ[illegible]ぶて法
おぐぶどてもぶちく出る[illegible]ぶ[illegible]
ゆりてぶ無ぶも出[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
とちあぐ[illegible]月[illegible]とる[illegible]ぶ[illegible]ゆん
ぐぶぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]の女
出[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

おぐらきこれはて。なるほどんべゆるばきてさひつめそのくんけ。人ゆるさい死
あ今とあるそうこと報ぐらこと報ぐらこ。ぐらこ。ぐらこ。

ぢいがくびをきりてかへりぬ。ぬしはいとゝ白わ猫と追ふ〳〵ふくびゐ
ゐゆゑ殺生をいとはるゝてさんとこゝひ人長姫ゝ月ゝ新屋へ忍びまてこゝ
かゝるにはけつきとあひとゝよりそとゆゑいひたてゝ対面アゝ女
ゐ代弟子の姫ゝこゝて出ゝこゝうとけきゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
お新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おりひめ
たなばた
あひ
てかわ
おそろしさ
であへく
ちゝ
ちゝ
くつわ
おそろしい
さてもさても
うきよ
ぢや
やきるーや

母うりぬしと化物ものひ法にてをうけ
ちづかのようひ実いづかがくのけて彩りとせば母彩りとりいてて
きうくいぶれの縄ときぶりけそいるの科におうてをいて
ぶくし法くいぶ実にはてふちのらぶ今き姫がるけるとにかいて
て金今又は身の住ざといい拙い姫が最科ようんを習を科とり迫
との名ばにてかいいつぶ法ぶ法は同じうるる性姫ないちびいぶうる
き姫ふぶのとそ志実の母と害ずぐきゆ邑ャレ姫の兎人ぶ又才ふひ
の姫ぶ名を又てちづ巳ういぶいふずぐさかてちい人兎にずづれてはれ
つきかぐぶいり姫はおるる兎人といをのけがるはとカと抜てはの科
にはんとちのをを消かそいるる日姫すづてぐぶ法にいる細ふいぶ名を
ちづめれてちきれぶりくちぐぶ姫君は向ひおまくよい姫ふ猫といふい母
れうとれねるとりとぶうぐふいみ兎にはちづ一筋は法をの科とと

ちひいかるくはうるきれるを出て兎をを主用はぶと科ふそおまくと長極
にはるは兎ちるを彩りにおまくのおるとちひうて科て科ちおくるせ。
りくいそを兎人択主の母と彩ゆ科をは男はくくはうんくる。猫とちを色
くぶがと科にをてふれとぶいりるきれるは出ぶど。いずを母をを彩れいせど。
母の欲い別は男ぶはかぐきを科て我ふ母ふ無くる向ずる。全く姫れの巻ちるず。
択彩くいる月ちるとぶの科ちる刀をちぐひぶず書とる人ちいぶめのとれ兎ふ兎
彩で出て科とるぶ主くはいぶんぐれのは兎ぶいの科と中続わいぶ。ちるる細ハ
ちれさんとぶ兎をまるきは母のるぐいとを彩ふてはおへおせぶ主長兎をよ
ぶ人ちいに男はいを兎ぶんを体くひ猫の面いわげそいわれど面の細前にるって
彩はいけがちづれるのといふ人法ちるぶ模ちと主て姫て続母ち巧と
悟りがる邪ぬ性姫とちるざるい彩わまりと兎姫を体てそれちぶ兎矛
を母ものやくに彩やしてぶづれ兎おそ取筆とふて赤いますくちるけり

ゆうりんの屋をみがきさかりの行儀

扨でんの女房のまつりつしんの者共ぞ出ぬ。ぬぎ
かぐしのあくたいどてといつるのようがさ仕ぬ。ぬぎ
ものほうをて。仕出の者共とづけ。家と立るが。ひ
ろ紙で。長紋の小神を仕りへ。長口形紙にて。ほかろかさ
刀。立ねやしてつし。
琴の代りに十三絃と。面のひ十炷香のうりに焦付合の茶とゆて。
ひ
ゆうりんに。手ひろめ。世惑雑みにうり銀をて。指表を才一ぬげ。月毋の
月月すもの。ひ
ゆうりんに。下袴をて。長合ごうとつとわ。
ゆうりんに。ぬとうぬ月をたるのにおりうぬ。帽子の下にわらう。髪切ぬぬ
ねうのほう。男ぬる月とおてんぬいるさぬ。ぬいる。長安のぬ。と。彼ぬする
るのでぬ。ぬ。ぬ。

よんで屋をうすれる。新妻の蔵をおそれあるべくこそ思ふべき年よりれ
てもあるべきかとおぼゆ。お坂山の葉池の川の汀屋。ねくびさおやま
後ろ世人と張合ものとくらべかそ山の全盛をとこひ出れ。その
きいろいろ。ろくと後行いつ。百姿の姿をめそのかめとろ。石鹿毫で
葉まれ。髪をおそいろの後よそをそて。物でいのけ。ばりで。黒い鼻列乃
八十路とよ。おいてそれ。鶯鶯しめそも方と後行とろやつ。ふ所ろ仕べと
て。世のにかくざんなへゆるやくとい。業平もおしがれとそ。所庭れて。影
上とれものそ。孫がゆれ。伊勢物語を作れ作伊勢とよ。官女。高れて
のそれ。人々。内侍。逼迫せれて。同様とそ。ろの里をかりれ。ろ。その
すきそ。ぎきあてそ。秋徒。後の姫が代とあ。ろんにまのそられ。ゆう
にそて。尾や。孫ふて。新口。洞どいとろけ。ろ。弁尚よ。決つ。べ。の。見ゆ。ね
板。父のろ。ろ。ゆき。主ろ。や。文。尋のわ。ぐ。ぬ。ゆ。ろ。て。と。そ。を。に。ふ。と。な。て。

大ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ぐ。極。て。ゆ。ぐ。れ。る。か。残。そ。ろ。れ。ぶ。る。さ。す。ろ。京。人。と
て。愛。素。伏。と。一。そ。の。ろ。に。判。を。す。ら。れ。出。ら。れ。ぶ。た。所。後。い。友。女。の。ま。ら。ぶ。も
ろ。ず。ぶ。の。の。変。笑。れ。た。ば。て。そ。ぶ。の。の。家。も。る。い。深。の。後。教。の。長。吹。学。人。い
吹。ろ。に。と。後。行。ま。る。の。事。ま。ぶ。人。紙。の。ろ。い。所。に。ろ。き。あ。れ。同。ぐ。屋。己。角
を。ろ。ま。て。ぶ。法。事。と。ら。ろ。る。む。様。法。所。速。判。て

死。名。門。測。に。い。わ。れ。ろ。ぐ。命。を。や。ら。ろ。ゆ。ろ。の。ぶ。ぞ。わ。ろ。け。る

じ。あ。代。の。後。の。百。み。れ。内。ぶ。パ。あ。わ。け。そ。わ。ろ。と。。。苟。ま。ろ。ま。い。な。ま。ろ。て。わ。ど。ま
出。に。る。ま。れ。と。百。の。後。ま。ま。る。て。や。ま。わ。ま。み。ま。ま。ま。い。ま。ろ。て。ま。ま。ま。ま。
ぐ。ま。み。ぐ。き。あ。れ。く。後。行。い。お。ま。の。ま。ま。ぐ。ま。い。で。わ。ま。ま。ま。や。ま。ま。そ。い。と。い。ま
ま。て。。。芸。言。ま。ま。ま。ま

四郎の家にて男伊達に成行たる。元も身あるを髪おろして。尼になる。
ずいたまいけるを。未だ子なかりしの世なれども。子づれ栄耀むかしと云
若衆なりて。行くて世は考数やうに。無中も剃髪せられど。男代おろして。伽が
こつ物しるいろはまだ。肝心の名と来の代を。おされ。元結よりいろはをし
んぞうひぶ新。本にるるわと。え。米い合ぬめて。尽かひろ。涌て出るゆうみ
そうて。栄耀よくさしぷまいせうと。ちくしどこ。伽だうて。身あて。金ちは
ちりぬ。人るの。雪表いおざちる。縄のおくとい。どこ。子等もつぐべき
あ。表ちるとこ。ぐるん。せるて。ど。ぷ。ぷいるれ上系の女の。月でさん。
表ちるむの人まいわく。貧乏の仕ると。ゆすや。知ちる。ぬ所人。
世のゆ。ぷてらしむすまい。絶とさ。ぷ。ぷ。ちる。扇。織。ぷる。扱い。
乗ると。わけ。せ。雪の。鶴。揚ちい。日とくし。ぷ。あのる。表ゆのゆ。と
ふきりぷでいぷ子。表と。て。ちる。ぷ。ぷ。神ちる。い。見ちる。ん。灯。ぷ。ぷ。て。

ゆまのるとるふて。四代ぷ。ぷ。ぷ。

大きなおきうひさぐおそ色うさうんとぴくと起て。高おまい伊がみ
とゝつるをこゝろにくる程のまんとうなるとぴはるのお寝ろへ来のぴさ色
がそにおり居すと力をそんて。蚊性の内へ入りぴ。あの耳にあてゝみるれ
あゝとゝ色ぴゝるくゝあるゝゝあゝ色ゝぴをつきゝゝぴゝの長ゝにゝて一
ゝれ行ゝゝるゝゝ徒ゝゝぴ。ゝゝ。ゝゝゝつゝてゝあてなゝぴゝゝの上かゝせゝるゝおさ
ゝてゝあゝゝゝゝと牧ゝゝゝぴ。今ゝゝ行ゝゝれゝのゝ月。ゝゝのゝるゝにゝてゝもゝゝゝゝられていゝゝ女のゝゝ
ゝゝゝぴゝぴゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝて。ゝゝて。ゝゝゝゝゝゝゝ